大分県ＰＴＡ
はぐくみ
はぐく美

発行所
大分市大字下郡496-38
大分県教育会館2F
大分県ＰＴＡ連合会
☎(097)556-9055
責任者
山田弘樹
印刷所
大分市下郡3154の22
九州凸版印刷株式会社

子どもが輝くＰＴＡ活動を目指して
http://www.oita-pta.com/

## 第16回全単位ＰＴＡ会長研修会

# 共生する時代へ

**7月8日、第16回全単位ＰＴＡ会長研修会が大分県ＰＴＡ連合会幹部と県内の単位ＰＴＡ会長ら235名が出席し、大分県教育会館で開催された。「子どもたちを取り巻く現代的諸課題について考える」をテーマに、多様化する社会について理解を深め、ＰＴＡのあり方について討議した。**

本会は、県内16郡市等の県Ｐ連理事と351単Ｐ会長が一堂に会し開催。組織の牽引役としての資質の向上を図るとともに、生涯学習の視点に立った単Ｐの研修活動を推進することを目的とした研修会。

開会に際し、山田弘樹県Ｐ連会長があいさつ。「長期にわたるコロナ禍が、子どもたちの心身に与えた影響は計り知れず、いじめ問題、不登校、児童虐待、ヤングケアラー、貧困の問題など、子どもたちを取り巻く環境はより厳しさを増している。このような状況の中、国はすべての子どもを取り残すことなく施策の対象として支援していくため、『こども家庭庁』を発足。ＰＴＡとしても学校・地域を結ぶ架け橋として、子どもたちの育ちを支える環境づくりにより一層取り組む必要がある。県Ｐ連は平成18年より『ＰＴＡ会長研修資料』を毎年発行・配布し、各郡市・ＰＴＡにおいて資料を用いた研修の実施をお願いしている。また本会を開催し、単位ＰＴＡの活動がより向上していくよう会長としての役割を学ぶ機会を設けている。今回は4年ぶりとなるグループ討議を実施する。各ＰＴＡが抱える課題を介し意見を交わし合う中で、解決への糸口が見つかればと思う。今後も県Ｐ連は家庭・学校・地域と連携し、子どもたちのための活動を進めていく。そのためにも皆さまの英知を結集し、更なる支援と協力をお願いしたい」と述べた。

### 自分らしく生きるために

全体研修会では、ＮＰＯ法人 Teto Company 理事長の奥結香氏による「多様な性について知ろう～子どもをひとりぼっちにしないために～」と題した講演会が行われた。「日本において、ＬＧＢＴに該当する人は3・3％。『身近にいる』とは言えない現状が社会的・心理的な障壁となっていた。例えば書類などに設けてある性別の欄で考えてみてほしい。自分の中にある固定観念に気付けると思う。それは無意識に人を傷つけているかもしれない。当たり前や普通という言葉に苦労は多いが、現在パートナーシップ制度の導入や性別に関係なく制服の組み合わせが選べるなど、性的少数者のために誰かが声をあげ活動してきた成果が社会を変えつつある。私も誰もが持っているＳＯＧＩ（＝性的指向・性自認）に関わらず全ての人が平等に扱われる社会を目指していきたい」と話した。

### 改善へ向け ヒントを探す

グループ討議では、小学校（小中連携含む）10、中学校5グループに分かれて、各司会者のもと活発な意見交換がなされた。その内容には大分県教育委員会との教育問題懇談会につなげる「討議の柱」も含まれている。

**グループ討議**
～内容は次の通り・抜粋～

**▼アフターコロナでのＰＴＡ活動再開について**　3年前に戻す必要はなく今の子どもたちに必要なことを考え取り組むことが大事。趣旨を理解したうえで活動を取捨選択、地域住民の協力を得ながら保護者・教職員、双方の負担が少ない形を模索していけばいいと思う。

**▼ＰＴＡ活動を盛り上げたい**　会員の方々に活動の意義を伝えることがまず大切。ＰＴＡならではの良さを発信していくなど見える化を進めると負担感も減り、興味をもってもらえるのでは。

**▼学校統合により活動に対する価値観の違いを感じる**　情報共有を図り理解を得ることで歩み寄りが進む。対面が難しければ、紙やアプリなど実状に合わせた情報発信ツールを活用してみて。

地域の特性や学校規模により、各単Ｐで抱える課題は違ってくる。多様化する社会の中で、家庭と学校、地域がより円滑に協働できるような運営に向け、ＰＴＡ会長としての役割を自ら再認識する会となった。

活発な意見が飛び交うグループ討議
実践例からヒントをつかむ

### 全体研修会
### 多様な性について知ろう
子どもをひとりぼっちにしないために

NPO法人 Teto Company 理事長
**奥　結香**（おく・ゆいか）氏

ひとりぼっちをつくらない社会づくりを目指して、赤ちゃんから高齢者まで障がいの有無に関わらず共に過ごすことができる地域コミュニティ「みんなのいえカラフル」や放課後等デイサービス事業を運営しながら多様性・共生社会について発信を続けている。

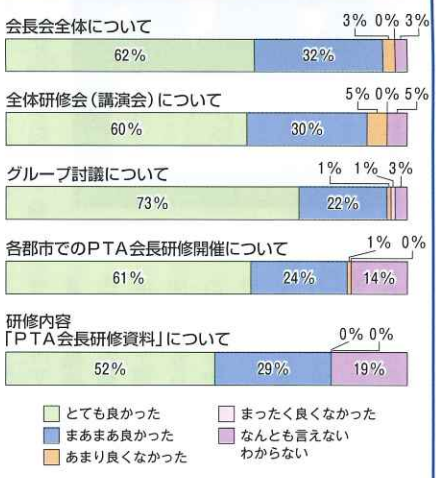
**LGBTとは？**
Lesbian、Gay、Bisexual、Transgender の頭文字をとった言葉で性的少数者（性的マイノリティ）を表す総称のひとつとしても使われます。

**SOGIとは？**
Sexual Orientation … 好きになる性（性的指向）、Gender Identity … 自分の性をどう思うか（性自認）という概念を表わす言葉です。性的マイノリティに限らず全ての人に関係します。現在は性表現（Gender Expression）を含めた SOGIE（ソジイ）とも表されます。

2 大分県ＰＴＡ連合会 指定研究発表会

3 第68回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会 佐賀大会

### 事後アンケートの結果




**意見・要望 など**

- 他校が抱える問題を共有でき、わが校の問題にもアドバイスをいただけた。
- あらゆる面で多様性に対する考え方を変えていこうと思った。
- 世代毎の考え方も多様であるので、多様性の時代の考え方を理解するのは簡単なことではないと思う。
- 新会長のために、ＰＴＡの在り方や活動全般に関して起こりうる問題などをレクチャーしてほしい。
- 討論テーマを各グループに任せているのが自由で良かったが、課題が分散し時間不足と感じる。
- 隣のグループが近く、自グループの意見が聞こえない。
- 会長研修会資料の説明やポイントの解説があっても良かったと思う。

### ときめき

「今日は中秋の名月だから、おだんご買ってきて」と子どもに言われたので…とはにかみながら話す父親。彼は四十二才。長女は小学校一年生。「僕がお風呂に入っていると姉弟二人で飛び込んでくる。身体を洗ってもらえるのが嬉しいらしくて」嬉しそうに子どもの様子を語るその姿が眩しい▼また、長女の課後のバスケットの送迎もしていると言う。子どもの行きたい中学校には女子のバスケット部はない。将来を考えると中学生になるまでに女子のバスケット部の人数を増やし、中学校に部を作ってもらえるよう頑張っているのだと言う。父親達とも話し合いながら、ゆくゆくは中学校にお願いに行きたいと話す。この父親の願いが実現することを願う。機会を見つけ私も、父親の願いを伝えておきたいものだ▼日常生活の多忙ななか、私達はなかなか子どもと向き合う時間がない。一日に十分間でいい、子どもと正面から向き合う時を作ってほしい。子どもの話に共感し、話を共有することで、子どもの心は柔らかになり優しくなる。時には一緒に草木や空を眺めることで思いがけない発見に心ときめくことだろう▼小学校の俳句教室に出かけたとき、中庭の柿の木の下にある石の上に、柿の種が落ちていた。それをしばらく見つめていた三年生の男の子は「石の上からすが残す柿のたね」の句を詠んだ。「からすは柿の種を放ったのではない。そっと石の上に置いて『たれか土に埋めておいてね』って頼んだんだよ。そうだよね」と語るその優しさに感じ入った。自然を見つめる優しいまなざし、柔らかな心を育みたいものだ。

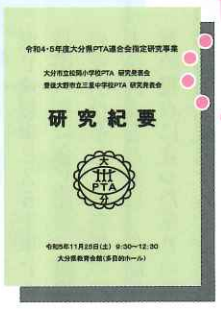
# 明日につながる活動へ

## 令和４・５年度大分県PTA連合会　指定研究発表会

11月25日、令和４・５年度の２年間、県ＰＴＡ連合会指定研究に取り組んできた２校の研究発表会が県教育会館で行われた。

具体的な実践例に聴き入る参加者

継続的研究の成果を披露する発表会には、県内から約400名の会員が参加。子どもを真ん中に、家庭・学校・地域が連携し、地域の特色を生かした２校のＰＴＡ活動が発表された。多様化する社会のなかで何を守り変えていくのか。ＰＴＡ活動の展望を考える機会となった。




## 開会行事

活動の充実に繋げてもらいたいあいさつする山田県Ｐ連会長

二木浩一県Ｐ連理事の開会宣言に続き、山田弘樹県Ｐ連会長が、今年度より指定研究発表会が単Ｐから県Ｐ連の主管行事として移管し、県教育会館で開催することとなった経緯を説明。多くの会員参加に感謝を述べた。「子どもたちを取り巻く深刻な課題が山積している。適切に対応するためには家庭・学校・地域がより緊密に連携し、社会全体で子どもの成長を見守り、支え、応援していくことが不可欠である。子どもを中心に同じベクトルで繋がり合い三者を結ぶ懸け橋としてＰＴＡが担うべき使命・役割は大きくなっている」とあいさつした。

続いて森山貴仁県教育庁社会教育課課長は「新型コロナウイルスが５類に移行した後も不登校や体力の低下等、児童生徒の学習や心身には今なお様々な影響がもたらされている。家庭・学校・地域が協働することで『地域と共にある学校づくり』を目指すため教育課程を介して地域とつながる学校の実現が求められる。子どもたちの自己実現を支えるため、役割の再認識と連携について本日の発表をとおして学んでもらいたい」と祝辞を述べた。その後、２校の公開発表が行われた。

### 指定研究事業とは…

大分県ＰＴＡ連合会指定研究は、1949年（昭和24）に始まった県教委指定の事業を1956年（昭和31）に引き継いだ他県にはない県Ｐ連の特色ある事業である。現在は大分県内より２単位のＰＴＡが研究指定を受け、２年間の研究成果を公開発表し、ＰＴＡの振興を図っている。

## すべての活動に新しい着眼点を

### 大分市立松岡小学校ＰＴＡ

大分市立松岡小学校ＰＴＡ（児童数９１６名）は、「広報誌のあり方について考える」を研究主題に岩見聡大Ｐ会長が公開発表。

発表する松岡小ＰＴＡ

#### 学校・校区紹介

松岡小学校は、明治８年創立。振興住宅地の開拓に伴い児童が増加し、平成20年度にはエレベーター完備の４階建て新校舎が完成。地域の中にある学校として校区の方々による体験学習も充実している。

#### 持続可能な広報誌へ

コロナ禍で活動を休止した令和２年度に「ＰＴＡ見直し委員会」を設置。保護者を対象にアンケート調査を実施することで、子どものために必要な活動を見直し、運営方法についても問題点を抽出、改善に向けて取り組んだ。令和３年度より、親子工作教室や給食試食会、ベルマーク収集、公民館清掃等をボランティア制で実施している。広報誌作成では、編集作業をスムーズに行えるよう専用のパソコンや編集ソフト、タブレット端末を導入。大きな負担となっていた写真の撮影や掲載同意の確認作業も保護者へ写真の提供をお願いすることで編集時間の短縮に繋がった。また予算を抑えるためデジタル配信を開始し希望者や地域の方へは校内で印刷して配布した。紙媒体をなくす案もあるが印刷物だからこその良さもある。人と人を繋ぐ広報誌の良さは残し、料理のレシピや趣味等作り手にとっても楽しい紙面にしていくことで持続可能な広報誌を目指したい。

発表内容について質問する参加者

太郎良将彦県教育庁社会教育課社会教育主事は「ＰＴＡにおける広報活動の必要性は会員・地域とのつながりを強化するものとして非常に重要であり、情報ツールを使用する実例等、今後の広報誌のあり方について方向性を示した。これからは読み手が新鮮味と共感を持てる紙面の工夫が求められる」と指導講評した。

## 地域とのつながりを感じて

### 豊後大野市立三重中学校ＰＴＡ

豊後大野市立三重中学校ＰＴＡ（生徒数４２７名）は、「ふるさとを愛し　心身ともにたくましく　未来を切り拓く力をもった　子どもの育成～学校・家庭・地域の連携を通して～」を研究主題に藤田昌代Ｐ会長が公開発表。

#### 学校・校区紹介

三重中学校は、豊後大野市の南東部に位置し、生徒の多くは町内５つの小学校から入学してくる。校訓「知を啓く・心を磨く・体を鍛える」は40年前に創られ現在までその精神は生徒に脈々と受継がれている。学校行事等では保護者や地域の方々が積極的に協力してくれる。

発表する三重中ＰＴＡ

#### 無理なくできる形に

本校ＰＴＡは「総務部・教養部・厚生部・広報部・地区委員会」の５つの専門部で組織。保護者・教職員・地域の方々が研究テーマを共有し実現に向けて取組を進めている。総務部のＰＴＡ除草作業では年間３回、学年ごとに校内の草取りを実施。地域の方もボランティアで協力する。７～８割の保護者参加があるが、作業日の都合が悪い場合は事前作業や他学年の作業日に参加してもらう等少しでも多くの方が参加できるよう呼びかけを行っている。それでも年々参加率は低下。さらに協力体制が希薄になっていくことが予想される。楽しみながら時代に即した活動を検討し無理なく参加できる形にしていくことが重要。子どもの育ちを応援するために学校・家庭・地域が連携してＰＴＡ活動の活性化を図っていく。

発表を終えた２ＰＴＡへ講評する太郎良将彦教育主事

太郎良将彦教育主事は「三重町子どもを育てる会に参加して、地域の人との繋がりに感動した。地域の人と協力しながら子どもの居場所づくりが非常に重要になる。現在、モデル地域として活動しており今後に期待する」と指導講評した。

## Smile隊

放課後、小学校に隣接する公民館に子ども達が集まって来ます。ここで、学びの二十一世紀塾・寺子屋講座が開かれているからです。

子ども達は机に着くとすぐに宿題を始めます。「ここだと集中して取り組める」「友達と一緒に勉強すると楽しい」「分からない所は教えてくれる」等の理由から参加しているようです。

私は、学習支援員として問題が解けているかを確認しながら、分からない子への指導や質問に答えています。分かった時の笑顔や子ども達との会話の中で、「やりがい」や「元気」をもらっています。

また、子ども達の素晴らしさも発見しました。「まず宿題をする習慣」「挨拶」「集中して取り組む」ことです。このような姿は、常日頃から学校や家庭で指導されている賜であると思っています。

時々、地元の高校生も学習支援に来ます。昔を思い出しながらやさしく教えています。子ども達も年齢の近い高校生からの指導をとても喜んでおり、「今度はいつ来るの」と聞く子もいました。寺子屋に通う子ども達が、数年後、逆の立場になって子ども達に接している姿を想像しています。

「子どもは地域の宝」です。地域の人たちが、いろいろな場面で関わりを持ち、子ども達の健やかな成長を見守っていければと思っています。私も体力と知力の続く限り子ども達と接し、有意義な時間を過ごしたいと思っています。

**豊後高田市　学びの21世紀塾**
**学習支援員　早田　義司郎**

## 第68回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会

# 佐賀大会

### 大会スローガン

## SAGAそう子どもの未来 見直そうPTAの力

### 大分県からも提言発表

第68回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会佐賀大会が10月28・29日に開催された。九州各県より約５０００名（大分県からは約２４５名）が参加。１日目に行われた６分科会の討議題にそって各ＰＴＡの取組を紹介する。

### 第１分科会　組織・運営

**家庭・学校・地域のつながりを強化した組織・運営**

**心豊かでふるさとを愛する「大三東っ子」の育成～家庭・学校・地域との連携・協働を通して～**

長崎県島原市立大三東小学校ＰＴＡ（児童数２３７人）

谷川誠一Ｐ会長は「活動の質を高めるため３つの工夫を実施。①組織内、組織間での情報共有化②委員会の開催回数や人数の見直し等、弾力的な運営への移行③関係組織との連携を活かした取組の推進。活動の活性化には会員の意識向上に加え現状に合った柔軟な運営体制も必要」と発表。

**地域社会（故郷）との架け橋となり共に生きるために～障がいのある子どもの可能性を最大限に伸ばすためのＰＴＡの役割とは～**

福岡県福岡市立若久特別支援学校（中学部）ＰＴＡ（児童・生徒数１８３人）

立木春香Ｐ会長は「子どもの可能性を広げる視点で活動を展開。ＰＴＡ行事は子どもの学習の場となるよう学校と一緒に企画運営し、地域と繋がるきっかけづくりを図る。活動は主にボランティア制で実施。参画意識を高め継続できる取組が目標」と発表。

### 第２分科会　家庭教育

**『resilience』生き抜く力を育む**

**家庭と学校、地域をつなぐＰＴＡ活動**

宮崎県小林市立細野小学校ＰＴＡ（児童数２３７人）

山下健一Ｐ事業部長は「学校、地域団体、中学校ＰＴＡとの連携を活かした取組を推進。会員の教養と親睦を深める家庭教育学級は、地域の方を講師とし小中学校ＰＴＡの合同開催とすることで会員同士の幅広い交流を図る。また学校内に事務所があり、ＰＴＡ副会長１人が在籍する『まちづくり協議会』との取組では、児童生徒の体験活動に力を入れる。連携することでより良い学びに繋がる」と発表。

**立ち向かう心と支える取り組み～共育～**

熊本県熊本市立益城城南中学校親校会（生徒数６３７人）

米原祐司親校会会長は「子どもと共に大人も育つ『共育』をモットーに活動。学校、家庭、地域に『今』必要とされる取組を実施している。子どもの安全安心な環境づくりに取り組む地域共育では、校区にある小中学校の４ＰＴＡで城南町ＰＴＡ連絡協議会・町Ｐを組織。地域や行政、警察等と趣旨を共有、連携することで横断的な活動に取り組む。また熊本県南部を襲った豪雨災害でも継続的なボランティア活動を実施。支え合う姿や行動を日常的に見せることが『家庭共育』には大切」と発表。

### 第３分科会　人権教育

**現在の人権教育を知り、向き合う活動**

**児童の自尊感情を高め、心身の健やかな成長を育むＰＴＡ活動～学校の教育活動と連携する取り組みを通して～**

鹿児島県出水市立大川内小学校ＰＴＡ（児童数54人）

徳留貴幸Ｐ会長は「特認校である本校のＰＴＡは準会員の地域の方と共に学校の教育活動に積極的に参画、一体となって活動する。講演会や校区の自然を生かした体験活動等を通し多様な人と関わる中で、児童も保護者も人権尊重の意識を高めている」と発表。

**『学び・響き・輝く』山香中ＰＴＡ活動～家庭と学校の連携・協力を通して～**

大分県杵築市立山香中学校ＰＴＡ（生徒数１７２人）

河野真一Ｐ会長（代理工藤慎一杵築市Ｐ連会長）は「『心のスイッチ』～自分の心が行動を決めるということ～』を指標に活動。講演会や専門部が取り組む活動を通じて、子どもの自主性を伸ばし保護者の人権意識の啓発に努める。なかでも保護者と教職員が行う登校挨拶運動では、挨拶の一言が互いの自尊感情を高め合い、挨拶をきっかけに始まった会話が生徒間の相互理解を深め、校内によい雰囲気をもたらした。生徒の安全安心のため考え工夫して協働で取り組むＰＴＡの姿は子どもの人権学習において大切である」と発表。

### 第４分科会　教育環境

**多様化する教育環境とＰＴＡの役割**

**保護者・教師・行政　みんなで作り上げる学校の実現**

福岡県行橋市立泉小学校ＰＴＡ（児童数８８８人）

藤原健太郎Ｐ会長は「行橋市ではＰＴＡ関係者が直に要望を訴える『教育委員会と語る会』が毎年実施され、的確な対応が進められる。市内小中学校の要望は事前に市Ｐ連の家庭教育委員会（母親代表者会議）がまとめ提出。内容は教育や施設に関すること等、多岐にわたる。本校ＰＴＡの家庭教育委員会は行政への意見を募り集約。教育環境の向上のため市Ｐ連との連携を通じた取組を進める」と発表。

**格差をなくす連携～多様化する教育環境とＰＴＡの役割～**

一般社団法人北九州市ＰＴＡ協議会

三浦隆史会長は「子育て環境で高評価を得ている北九州市でも各ＰＴＡの活動格差は大きく教育環境も多様化。市Ｐ協は市内全域のパイプ役を担うことで平等化を図る。近年はコミュニケーション不足の解消や子どもの未来を見据えた活動に着目。地域や企業、学生等と協働したイベント開催を通じて保護者と子どもの意見を収集、教育環境の改善やＰＴＡの役割を再認識できる取組に繋げている」と発表。

### 第５分科会　広報・地域連携

**学校・家庭・地域が有機的につながり、共に高め合うＰＴＡ活動の推進**

**「地域と連携・協働」「地域学校協働活動」「外部人材活用」育てよう 地域の宝 滑石っ子～地域と連携・協働したＰＴＡ活動～**

熊本県玉名市立滑石小学校ＰＴＡ（児童数81人）

入江祐輔Ｐ会長は「児童に体験させる目的でＰＴＡが主催する小正月の伝統行事『どんどや』※は準備から当日まで地域の方の十分な協力体制があってこそ実施できる。会員数は減少傾向。活動の継続は厳しい状況にあるが、家庭と学校、地域で連携する姿を見せることが地域に貢献できる児童の育成に繋がり地域の活性化にも繋がる」と発表。

※竹とわらで組み上げたやぐらに火を入れ無病息災を願う伝統行事。

**こどもは地域の宝～学校・家庭・地域をつなげる広報紙をめざして～**

沖縄県宮古島市立狩俣中学校ＰＴＡ（生徒数17人）

佐渡山誠Ｐ会長は「年３回発行する広報紙『潮の音』では、ＰＴＡ行事、学校行事等をＡ３見開き（４Ｐ）で紹介。地域と子どもを結ぶため共同購買店等に掲示し交流のきっかけ作りを図る。保護者目線で作成される手書きの紙面は好評で賞を受賞。アナログ的な編集作業を重ねる中で会員同士の意思疎通も深まる。今後も地域連携の一助として広報紙発行を続けたい」と発表。

### 特別分科会　そもそもＰＴＡとは

**今こそ見つめなおそうＰＴＡの存在意義**

始めに、大分県佐伯市出身で鷹鳥屋（たかとりや）神社宮司、矢野大和氏による「家庭のＷＡ・学校のＷＡ・地域のＷＡ」と題した基調講演があった。

続いて、①これからの時代のニーズに応えるＰＴＡの姿とは②ＰＴＡ本来の姿を取り戻すための私たちの取り組みを討議の柱としたシンポジウムが行われた。

◆**コーディネーター**

牛丸和人氏（西九州大学短期大学部幼児保育学科教授）

◆**パネリスト**

吉冨敦思氏（バトランSAGA）

池田清哉氏（登山愛好家）

矢野大和氏（鷹鳥屋神社宮司）

### 全体会

２日目の全体会では株式会社タニタ代表取締役社長の谷田千里氏（１９７２年生まれ・佐賀大学理工学部卒）による記念講演が行われた。最後に次期開催地の長崎県にバトンタッチし大会は幕を閉じた。

第32回大分県ＰＴＡ研究大会

# 宇佐市大会

大会スローガン

## 子ども育ては「親育ち」共に学ぼうＰＴＡ

～地域・学校・家庭が育つ～

開催日
令和６年１月28日(日)

場　所
宇佐文化会館
宇佐市民図書館
宇佐教育会館

| 分科会・テーマ | 提　言　題 | 提言者 |
|---|---|---|
| 第１分科会 家庭教育 テーマ『しつけ』を通して『親育ち』 | 親子で一緒に考える家庭のルールとは？ | 国東市立 旭日小学校ＰＴＡ会長 志丸　信昭 |
| | 自己肯定感を高める親子のかかわりとは？ | 宇佐市立 北部中学校ＰＴＡ会長 加藤　大 |
| 第２分科会 人権教育 テーマ『いのち』を支える育ち合い | 広げる・深める・つなげる人権教育活動 | 宇佐市立 北馬城小学校ＰＴＡ会長 吉澤　貴樹 |
| | 親子で学ぶ人権学習の意識の高め方 | 大分市立 稙田中学校ＰＴＡ会長 加藤　健 |
| 第３分科会 広報活動と地域連携 テーマ 出会い、ふれあい 学び合い | 地域とPTAとのコミュニケーションの充実について | 佐伯市立 鶴岡小学校ＰＴＡ会長 大鶴　将裕 |
| | 持続可能なＰＴＡ活動の在り方（地域と連携した新しい繋がり） | 津久見市立 第一中学校ＰＴＡ会長 中平　直子 |
| 第４分科会 健全育成 テーマ『大人』が変われば『子ども』も変わる | 安全・安心な環境づくりのため保護者としてどうあるべきか | 豊後大野市立 清川小・中学校きよかわＰＴＡ会長 板井　諭志 |
| | 子どもたちのために大人が学校とどの様にかかわるのか？ | 日田市立 大明小中学校育友会会長 馬場　亮次 |

## 第47回　大分県ＰＴＡ広報紙コンクール

◆応募対象◆
県下の小・中・特別支援学校ＰＴＡで年１回以上定期発行した広報紙（号外を除く）〔令和５年３月～令和６年２月までに発行したすべての号を提出〕

締切日　令和６年２月16日(金)
審査日　令和６年２月27日(火)
表彰式　令和６年３月19日(火)

※単位ＰＴＡに実施要綱を送付します。ご確認お願いいたします。


## 大分県ＰＴＡ連合会 学生・こども総合保険のご案内

（引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社）

自転車の事故　タブレットの破損　熱中症　突発的なケガ

ご心配な方へ！

**お手続きはまだ間に合います！**

スマホでかんたん　保険申し込み～口座の登録まで手続き！

保険にかかるお問合せ・事故に遭われた時のご連絡先

〈取扱代理店〉東京海上日動パートナーズ九州 大分支店 大分支社
〒870-0839 大分県大分市金池南１丁目５番１ コレジオ大分２階
TEL：0120-800-577　受付時間：平日9:00～17:00
詳細は大分県ＰＴＡ連合会ＨＰ掲載の「東京海上日動 パンフレット」をご覧ください。


## 第71回日本ＰＴＡ全国研究大会 広島大会

### すべての子どもたちに豊かな学びをとどける

大分県ＰＴＡ連合会
副会長　染谷　和陽

8月25・26日に広島県で開催された第71回日本ＰＴＡ全国研究大会・第53回日本ＰＴＡ中国ブロック大会広島大会に、大分県ＰＴＡ連合会理事8名で参加してきました。日本の未来が子どもたちの笑顔に満ちた安心と信頼の社会であることを願い、「変化の時代に向けＰＴＡ自身が学びの変革を ～見つけ 考えかわろうや ぶち楽しいで！～」の大会スローガンのもと、全国から多くのＰＴＡの仲間が平和を尊ぶ広島の地に集いました。

私が参加した第2分科会の研究課題は「すべての子どもたちの豊かな学びを実現するために ～様々な要因から学校に適応できない子どもたちへの対応～」です。NPO法人全国不登校新聞社事務局長の小熊広宣氏の基調講演では、少子化で児童生徒数は減少しているのに、不登校の児童生徒数は9年連続で増加している。特に直近の10年で小学生の不登校児童数が3倍になっている。親としては強引に学校に向かわせるのではなく、まずは子どもの気持ちを考えることが大事。その対応方法は足し算ではなく引き算（しないこと）を心がけ、家を安全基地になるようにする。そして「親がしてはいけない6か条」①高校のパンフを置く②同級生の話をする③学校に行ってほしいオーラを出す④親の不安と子の不安は別物、分けて考える⑤子どもを理由に親が趣味や付き合いをやめる⑥不登校を理由に禁止事項を設ける　まずはこのことに親が気をつけてみてと話されました。

2日目の全体会では人工知能研究者・感性アナリストの黒川伊保子氏が「心のトリセツ～『逃げ癖』を『意欲』に変える脳科学～」と題し講演。ご自身の研究や子育ての経験をもとに子どもたちに身につけてほしい発想力と対話力、失敗から学べる大切なことについて話されました。

この研究大会を通じて、子どもたちのためにＰＴＡができることは何かを改めて考えるとても有意義な機会となりました。

## 令和５年度 優良ＰＴＡ功労者表彰

**優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰**
〈団体〉九重町立南山田小学校 父母と教職員の会
〈個人〉疋田　啓二

**日本ＰＴＡ会長表彰**
〈団体〉豊後高田市立高田小学校ＰＴＡ
佐伯市立鶴谷中学校育友会
〈個人〉曽宮　康生

**第45回全国小・中学校ＰＴＡ広報紙コンクール表彰**
〈教育家庭新聞社社長賞〉大分市立下郡小学校ＰＴＡ「まてばしい」

**九州ブロックＰＴＡ協議会会長表彰**
〈団体〉九重町立南山田小学校 父母と教職員の会
〈個人〉芝尾　文徳
曽宮　康生
山中　麻友

おめでとうございます

## 子そだてチョコっと sweet & bitter ひとこと

### 手のはなし

「和尚さんの手の話」というタイトルの冊子に出会いました。

「あなたの健康に役立つ」と、小さな字が添えられていました。

健康な身体（からだ）の話には「手」がそれほどにまで縁が深いとは思っていませんでしたので、興味津津（きょうみしんしん）。

「手間ひまかけて」
「手探りで生き方を」
「手塩にかけて」
「手をかけて」などなど。

「子そだて」という営みには「手間ひまかけて」は「手を抜けない」。

社会の変動のスピードが衰えるどころか、新たな転換へ向けて走り続ける昨今。

「失敗から学ぶ」ことは、広く、深く、時代を越え、言い続けられ、今に至っている。

「手」を変え続けても、悩ましい状況ばかり。

ドラマのようなハッピーエンドには至っていない。

ここで、ちょっと立ち止まって「手」を見てみよう。

「手間ひまかけて」、「手探り」で、「手塩にかけて」「手当て」をして、家族が「家族」になっていく。

「手」をかける以外に豊かなくらしは手に入りません。

「手」に「手」を取って、「手まわし」に気を配り、手がたく生きる「手」しかないのかもしれません。

## 編集後記

はぐく美編集委員が加わりました。　内　郁枝（新）

※「はぐく美」編集委員を募集しています。詳細は左記事務局までお問い合わせください。
大分県ＰＴＡ連合会事務局
☎(097)556-9055

▼ごっこ遊びに必要だと某きせかえ人形の祖父、浩（ひろし）さんが初商品化され今秋話題に。確かに我が家の育児にも登場してた。家族の形も様々。（O）

▼我家の犬が初出産。娘二人が立合う。長女は心配、次女はどこから生まれるのか？感性の違いに微笑む。母は自身を重ね、母犬を労う。（U・K）

▼息子と2泊3日で京都・大阪へ行ってきました。最初で最後の2人旅かなと思いつつ観光名所を巡る。京都駅で迷子になった事は内緒ね。（K）

▼地区の餅つき大会。杵が昨年より軽い！の言葉に娘の成長を感じた。私も新しい環境で緑をはぐくみながら成長していけたらと思う。（U・I）